ルセフィ®

®登録商標

を服用される患者さんへ

このお薬は2型糖尿病の治療薬です。
尿中に糖を排泄させることにより、血糖値を下げます。

通常1日1回 1錠あるいは1枚（1回に飲む量は医師が調整します。指示通りに飲んでください。）

朝食前または朝食後に飲んでください。

飲み忘れたら

気がついたときに、すぐに1回分を飲んでください。
ただし、次に飲むまでの時間が近い場合は、その日は飲まないで、次の時間（翌日）に1回分を飲んでください。
2回分を一度に飲まないでください。

服用中に気をつけていただきたいことがあります。
必ずお読みください。
ご家族やまわりの方にもこのしおりの内容をお知らせください。

RMP

水分を適度にとって、脱水症状に注意してください

このお薬の作用により、次のような症状があらわれることがあります。

- 口やのどが渇く
- 尿の量が増える
- 排尿回数が増える

☑ 脱水にならないように**適度な水分補給**を心がけてください。一度に多くの水分をとるのではなく、口やのどが渇かなくても**こまめな飲水**を続けてください。本剤服用中は、尿量や排尿回数の増加などを気にして、水分補給を控えないよう注意してください。

☑ 高齢の方は、口やのどが渇くなどの**脱水症状に気づきにくい**ので注意してください。

☑ ひどい下痢や発熱、食事がとれないなどの病気にかかった場合には、**脱水になりやすい**ので、すぐに医師・薬剤師に相談してください。

脱水の主な症状

このような症状があらわれた場合には、すぐに医師・薬剤師に相談してください。

- 口やのどが渇く
- ふらふらする
- 立ちくらみ　など

脱水が起こりやすい状況

このようなときには特に注意が必要です。

- 汗を多くかいたとき（夏場など）
- 発熱、下痢、嘔吐があるとき
- 食事が十分にとれていないとき
- 飲水量が少ないとき（冬場など）
- 血糖コントロールが極めて不良のとき
- 利尿剤を併用しているとき　など

体調の変化に注意してください

このお薬は、脂肪酸代謝を亢進させるため、その分解物であるケトン体が血中に増えて、血糖値が高くなくてもケトアシドーシス※になることがあります。本剤の服用中は、以下のような体調の変化に注意してください。

※ケトアシドーシスとは
血液中のケトン体の量が増えることで、血液が酸性に傾き、体調にさまざまな変化を起こします。気づかずに重症となると意識障害に至る場合もあります。

予防のために

過度な糖質摂取制限を避け、食事や水分をきちんととることを心がけてください。

ケトアシドーシスの主な症状

このような症状があらわれた場合には、すぐに医療機関を受診してください。

- 吐き気、嘔吐
- お腹が痛い
- だるい、息苦しい
- 食欲がない
- 口やのどがひどく渇く
- 意識の低下　など

ケトアシドーシスが起こりやすい状況

このようなときには特に注意が必要です。

- インスリン製剤を減量や中止したとき
- 糖質摂取を制限しすぎたとき
- 食事が十分にとれていないとき
- 感染症にかかったとき
- 脱水症状のとき　など

尿路感染、性器感染に注意してください

このお薬の服用中は尿中に糖が出るため、尿路や性器が感染しやすい状態になります。本剤の服用中は、以下のような症状に注意してください。

予防のために

尿意をがまんしない

陰部の清潔を心がけてください。

尿路感染の主な症状

- 排尿時の痛み
- 陰部のかゆみ
- 排尿後も尿が残っている感じ　など

性器感染の主な症状

- 陰部のかゆみ
- 陰部の灼熱感　など

このような症状があらわれた場合は、すぐに医師・薬剤師に相談してください。尿路感染や性器感染が重症になると、腎盂腎炎、陰部の壊死性感染症*、敗血症などになる場合があります。

*陰部が赤紫色に腫れて水ぶくれができたり、ただれたりします。強い痛みや高熱をともないます。

POINT

風邪をひいたりして、全身状態がよくないときには、
（このような日を「シックデイ（病気の日）」といいます）
体調管理にはいつも以上の注意が必要です。

■ シックデイのときは、脱水や血糖コントロール不良が起きやすく、ルセフィなどの尿量を増やす作用のある薬剤の服用は、一時的に服用を休んだりすることが必要な場合があります。
病気で発熱や下痢・嘔吐などの症状が強いとき、食事がほとんどとれなくなっているときなどには、医療機関に相談するようにしてください。

低血糖に注意してください

低血糖の主な症状

- 冷や汗
- 手足のふるえ
- 強い空腹感
- 脱力感　など

低血糖が起こりやすい状況

- 食事の遅れ・量の不足
- お酒の飲みすぎ
- 激しい運動　など

低血糖は進行すると意識を失うこともあります。
症状があらわれたときは、**すぐに糖分（糖質を含む食品など）をとってください。**

注意　α-グルコシダーゼ阻害薬（アカルボース、ボグリボース、ミグリトールなど）を併用されている方は、必ずブドウ糖をとってください。

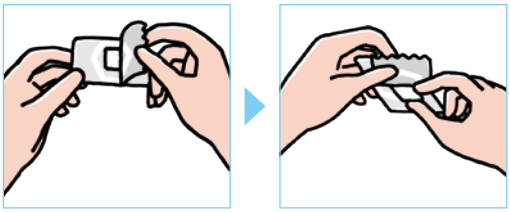
それでも症状が回復しない場合は、ただちに医療機関を受診してください。

- ☑ 飲み合わせで低血糖が起こりやすくなることがあります。ほかのお薬を開始する場合は、医師・薬剤師に相談してください。
- ☑ 高所作業や自動車の運転中などに低血糖を起こすと事故につながりますので、特に注意してください。

ODフィルムを服用される患者さんへ

お薬の取り出し方

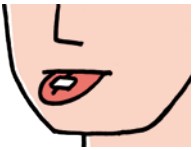
かわいた手指で、袋を両側に広げるように開き、フィルム状のお薬を取り出してください。



- ☑ 飲む直前に取り出してください。
- ☑ 水に溶けやすいので、濡れた手で取り出さないでください。

飲み方

▶フィルム状のお薬を舌の上にのせ、唾液で溶かして飲みこみます。



▶上顎などに張り付くことがありますが、そのまま口の中で溶かして飲みこんでください。

- ☑ 飲みにくいときは、水またはぬるま湯で飲んでください。
- ☑ このお薬は水なしで服用可能ですが、必ず飲みこんでください。

医療機関名

66155
2024年9月作成

大正製薬株式会社

4 987306 661554